



Title	南京活動記録（2017年9月9日～21日）
Author(s)	大坪，慶之
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 95-98
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84918
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(4) 南京活動記録 (2017 年 9 月 9 日～21 日)

大坪慶之

9 月 9 日 (土) 【関空発⇒南京着】中国東方航空 MU2860 便

片山剛 (大阪大学教授)・大坪慶之 (三重大学准教授) が JFE21 世紀財団の調査で、稲田清一 (甲南大学教授) が科研 (片山科研) の調査で、関西国際空港から南京に到着。別の用務で南京を訪問する森正夫先生 (名古屋大学名誉教授) も同じ便で、宿舎も同じ。宿舎は中山大廈。なお、飛行機の遅延および宿舎でのチェックインの際のトラブルが重なり、深夜 12 時 30 分頃ようやく部屋に入る。

9 月 10 日 (日) 南京図書館 (南京市玄武区)

片山・稲田・大坪の三名で調査を開始する。今回の調査目的は、JFE 財団のアジア歴史研究助成の資金を利用する片山・大坪は、1937 年の日本軍による南京空襲関係の資料を、科研の稲田は、1930 年代の南京市の地価税に関するものを収集することである。この日は、南京図書館が提供しているデータベースの確認を行い、『申報』『中央日報』などの当時の新聞資料についてキーワード検索を行う。

夜、夏維中教授 (南京大学) およびそのご家族、特木勸副教授 (南京大学) らと会食し、調査の趣旨を説明したうえで、協力を依頼する。

9 月 11 日 (月) 南京市檔案館 (南京市建鄴区)

午前、特木勲副教授から南京市檔案館と中国第二歴史檔案館への紹介状を受け取ったあと、移転して新しくなった南京市檔案館に同行していただく。檔案館の閲覧方法が変更になっていたため、まず閲覧申請をしたうえで、許可（「批准」）が出るのを待つことになる。許可が下りるのは、早くて午後とのことだった。

午後は、書店で研究に必要な中華民国期の古地図を購入するなどして過ごす。なお、許可は翌日以降に持ち越しとなる。夕刻、稲田と大坪は、夏維中夫人に薦められた南京事件や慰安婦に関する記録映画「二十二」を見る。

9月12日（火） 南京図書館

この日は、南京市檔案館から閲覧許可が出るのを待ちながら、南京図書館にて調査する。片山は、『申報』や民国史料叢刊に所収の南京空襲や地政関係の資料を収集する。稲田は地価税について、大坪は空襲の対象となった南京の飛行場や旗地に関するものを閲覧する。

昼、陳紅民教授（浙江大学）と会い、情報交換を行う。夜、南京大学の范金民教授・夏維中教授・万朝林教授らと会食する。

9月13日（水） 南京図書館

この日も、南京市檔案館からの連絡を待ちつつ、南京図書館での作業を継続する。午後、南京市檔案館から閲覧許可が下りたとの電話がくるが、移動時間に伴う効率の悪さを考慮して、翌日から調査に入ることにする。

9月14日（木） 南京市檔案館

南京市檔案館に行き、デジタル画像による資料閲覧を開始する。しかし、システムの問題により希望する檔案が見られない状態だったので、別途申請を行う。午後から順次檔案が見られるようになったため、片山は土地登記関係のもの、稲田は地価税・房捐についての資料を調査する。大坪は申請した檔案が閲覧可能な状態にならなかったため、檔案館が所蔵する書籍から、南京の空襲や飛行場に関する記載を写真撮影する。なお、片山が申請した南京への空襲関係の檔案は、この日は出てこなかった。

9月15日（金） 南京市檔案館・江心洲（南京市建鄴区）

午前中は、三人で南京市檔案館へ行く。前日に申請した檔案の多くが閲覧可能になった稲田は、調査を進める。片山は、一部申請分が見られるようになったが全て『南京市政府公報』のデジタル画像であり、希望していた空襲関係のものは閲覧不可とされた（理由は不明）。大坪は、申請分すべてがデジタル作業中で閲覧不可とのことだった。

午後は、二班に分かれて行動する。稲田は、檔案館に残り作業を継続する。片山・大坪は、第一次科研以来調査を進めてきた江心洲の開発後の様子を見に行く。現地は広い道が整備され、高層ビルの建設も進んでいた。もとい住民はほとんど引っ越していなくなっ

た様子で、景観もかつての面影を残していなかった。

夜、南京大学金陵学院の何慈毅教授および森正夫教授と会食する。

9月16日（土） 自由行動

土曜日ということもあり、自由行動とする。稲田は、南京図書館で作業をしたのち、夫子廟付近を散策する。大坪は、南朝以来の古刹である鶏鳴寺を見学した後、中華民国期に气象台が置かれた北極閣を訪れる。そこには気象歴史博物館とともに当時の建造物が残っているとの話だったが、気象局の敷地内ということもあり（博物館は閉館）、中に入ることができなかった。片山は疲労回復のため、ホテルで休養を取る。

この日、森正夫教授が帰国する。

9月17日（日） 南京抗日航空紀念館（南京市玄武区）

三人で、南京抗日航空紀念館に行く。展示は、日中戦争期の航空部隊による戦闘についてのパネルが中心で、今回の調査と大いに関係するテーマである。特に、当時作成された檔案を拡大したパネルや古写真などは、興味深いものであった。

9月18日（月） 第二歴史檔案館（南京市玄武区）・南京市檔案館

午前中は二班に分かれて活動する。片山・大坪は、第二歴史檔案館へ行く。最初に閲覧申請をするも、「批准」が下りるまで待つよう言われ、目録検索すらできないまま終わる。稲田は南京市檔案館を訪れ、先週の作業を継続するとともに、新たに檔案の閲覧申請を行う。午後、片山・大坪は南京市檔案館へ向かい、稲田と合流する。しかし、午前中に新たに出した申請分については、処長不在とのことで許可が下りておらず、見ることはできなかった。稲田は、午後に作業を完了させる。

9月19日（火） 第二歴史檔案館・南京図書館

この日も、二班に分かれて行動する。片山・大坪は、前日夕刻に閲覧許可の出た第二歴史檔案館に向かう。午前中に許可の下りた範囲内のデジタル目録を見て閲覧を希望する檔案を申請する。許可は15時以降とのことだったので、南京図書館に行っていた稲田と正午頃に合流し、南京図書館で作業を行う。15時に再び第二歴史檔案館へ戻り、デジタル化された檔案を閲覧する。しかし、内容的には台湾で見たものと同じなど、期待したものではなかった。稲田は、終日南京図書館にて『南京市政府公報』の関連記事を収集する。

9月20日（水） 南京市檔案館・第二歴史檔案館・南京図書館

最後の日ということもあり、手分けして各文書館・図書館で調査する。片山・大坪は、最初に南京市檔案館に行くも、月曜日に申請した檔案は閲覧させてもらえなかった。その後、片山は第二歴史檔案館へ行き、昨日の調査を継続する。大坪は、先に南京図書館に行

っていた稲田と合流し、南京爆撃関係の研究論文をダウンロードする。稲田は、前日までの作業を継続する。

夜、南京大学の夏維中教授・張学鋒教授ならびに同大学の大学院生らと会食し、今回の調査へのお礼をするとともに、次回調査の協力を依頼する。

9月21日（木） 【南京発⇒関空着】中国東方航空 MU2859 便

片山・稲田・大坪が、調査を終え帰国する。飛行機に搭乗した後、離陸までに1時間程度待たされるなど心配されたが、三名ともその日のうちに無事に帰宅できた。
